

ベビユニバースの開発成功事例その7：



(画像はイメージ)

アウトラインフォントを正確に認識する技術

そもそもフォント情報を持っていないのだから、アウトラインフォントという名称自体に矛盾があるが、（それはさておき）ここでは図形化されたフォントをアウトラインフォントと呼ぶ。

10年ほど前に大手印刷会社からこの依頼があった時には驚いてしまった。

（守秘義務があるので、詳細は避けるが、）

トップクラスの手印刷会社ともなると、様々な業種のメーカーから発売される新商品包装部材を大量印刷し納品する。従って少しでもミスがあれば、即、大規模な印刷事故となり、その膨大なコスト負担だけでなく、大切な顧客を失う可能性が高くなる。

だから印刷の校了データを制作する現場は半端ない緊張感を伴い、特に校正作業には手間がかかっていた。

そしてメーカーから届く元のデザインデータの多くは、既にアウトラインフォントになっているモノが多いようで、修正が入る時には「元のフォント情報」がどうしても必要になる。

しかし「元のフォント情報」を取得することは容易ではなく、ここでも手間と時間を要することになる。なぜなら英数字だけならともかく、数千文字にも及ぶ日本語を形から正確に読み取るには、だたでさえ高い図形認識技術が必要となるが、更に長体・平体がかかっているアウトラインフォントだとそれは非常に困難を極める。

つまりご依頼は、アウトラインフォントから「元のフォント情報」を正確に得る為のアプリ開発であった。

そこで我々がとった解決方法は、全てのフォント、全ての文字形状の特徴を自動的に抽出し、「全文字形状情報ファイル」を瞬時に作成できるアプリを先に開発した。

この形状ファイルがあることで、膨大なフォントでも瞬時に特定でき、長体・平体率まで正確に取得できるようになった。

便利になったお客様からすれば、恐らく我々の苦勞はご理解いただけないかもしれない。我々にとって、それさえ気づかせないほど当たり前のツールとしてお使いいただけることが最も喜ばしいことなのだ...